

<学科試験>

■出題傾向

問題 23「固定利付債券の利回り（単利・年率）と市場金利の変動との関係」など、一部に過去の出題形式と異なる問題が出題されたが、全般的に過去の類似問題を中心とした基本的な問題が多く、従来と比べて大きな変化はない。

■問題のレベル

一部に過去の出題形式と異なる問題が出題されたが、基礎知識を問うような標準的な問題が多く、従来と同レベルといえる。

■特記事項

問題 30「2018年における投資主体別の動向」では、新聞などで時事的なニュースをチェックしているか否かが問われており、やや難しい。また、問題 56「各種金融資産の相続税評価」も、正解肢は基本事項であるが、その他の選択肢はやや難しい。ただし、極端に難易度の高い問題は少なかったため、過去の傾向を分析し、これを踏まえて基本事項を確実に押さえていた受検生は、合格ラインに到達できたと思われる。

<実技試験>

■出題傾向

従来どおり、過去に出題された問題の類似問題もあるが、不動産所得の金額（問 9）、少額短期保険（問 13）、事業所得の金額（問 36）などのようにこれまでの傾向とは違う問題が散見された。

■問題のレベル

健康保険の傷病手当金（問 40）は頻繁に問われる項目であるが、今回は上級試験での出題のように複雑な計算が求められた。問われているポイントが複数箇所ある問題、段階を踏まなければ解答できない問題が多かったため、全体としてはやや難しかったといえる。

■特記事項

特に、第 10 問では定番問題のバランスシート分析（問 35）以外は、難易度の高い問題あるいは正解を導くには時間のかかる問題がほとんどであった。実技試験は時間が足りなくなる受検生が多いため、解けない問題を早い段階で判断して見切ることも必要となる。

<総括>

学科試験は、どの科目も従来から問われていることが出題されているので、しっかりと学習してきた受検生にとっては得点しやすい内容だったと思われる。

実技試験は、これまでにない形式の問題（問9、問16、問36）はあるものの、半数以上を占めている定番問題に対する準備ができていれば合格点は取れる内容である。実技試験では、問われている内容は同じでも、これまでと異なる形式や見た目が出題されると、まったく違う問題に見えることもある。本試験では、すぐに解けそうな問題や慣れている形式の問題から優先的に解答していくといった対応なども必要になるだろう。

※このシートは、2019年5月26日に実施された試験を、山田コンサルティンググループが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。